

## 設立について

この度、安全・安心のまちづくりの一環として、防災・減災の知識・情報の形成やその具体的な行動の実践の場を提供することを目的とした福井県防災士会を設立するに至りました。

2004年の今年の漢字は“災”でした。その年に、福井県では7月18日福井豪雨があり、尊い人命を亡くし、多大な家屋等の財産を失ったことは記憶に新しいところです。

阪神・淡路大震災を契機にして、国民の一人ひとりがわが事として、自分の命は自分で守る、地域は地域で守る、職域は職域で守るという考え方のもとに国民の中にあって防災水準の維持向上と啓発に努める、相当程度の専門性を持ったリーダーたり得る多数の人材の確保が求められました。

2003年に防災士第1号が認証されました。その後防災士の数も、堅調な増加を示しています。2004年11月と2007年10月と福井市において防災士研修講座が開催され、それぞれ100名前後の方々が防災士として認証されたのを始め、本年4月末では237名の数に達しています。因みに全国では2万3千人を超えています。

県下の災害については、地震では、60年前の1948年6月28日の福井震災(M7.1、死者3269名、家屋被害4万8千戸)、台風、集中豪雨(1965年の奥越集中豪雨の西谷村被災、2004年の福井豪雨)、豪雪(38豪雪、56豪雪、平成18豪雪)が上げられます。そのほかにも、環境に大きな被害を与えた、1997年のナホトカ号重油流出事故も記憶にあるところです。

防災・減災技術は日進月歩であり、防災にかかわる行政の法律整備やそれに基づく支援策の充実は、目を見張るものがあります。一方で、災害に直面したときの、人々の行動のあり方によって、被災の程度の大きさが左右されたり、災害からの回復過程に大きな差がみられたりするといわれています。

台風・洪水は天気予報によってある程度予測できるようになり、避難や補強等の対策は可能とされていますが、地震については確かに緊急地震速報が昨年から運用されていますが、避難するのに十分な余裕の確保は難しいのが現状です。

わが国の災害ボランティアの歴史は、関東大震災のさい、東京帝国大学の学生が、上野公園に仮設トイレを作ったのが嚆矢とされますが、福井震災の際、東大生を中心とした救援隊として東京学生同盟や、京都府、島根県の青年団が駆けつけ、天理教救援隊の活動が見られたといわれています。

当会では、第一に、防災士が最新の防災知識を身につけている必要があると考え、研修を通して、その資質・スキルの向上を図り、その上で県下に在住する地域住民と共に学ぶ機会として事業活動を行ないます。第二に、災害や防災・減災について、すなわち防災士及び防災士会の活動のことを広く知っていただくための広報・啓発活動を行ないます。具体的には、HPの開設・運営や会報誌の発行を当初の目標として推進します。第三には、会員同士に限らず県市町の防災関係者や災害ボランティア団体等とのコミュニケーションを図り、各機関・団体との協働の実を挙げることで地域の防災力向上に寄与したいと考えています。

以上の趣旨で、今年3月に日本防災士会福井県支部のアンケートを兼ねて案内をし、5月上旬に設立総会の案内をしたところ、20数名の方のご賛同をいただき、ここに、当会を設立する運びとなりました。

2008年5月 福井県防災士会設立準備会座長 荒木俊幸